



十二月八日(日) 天気予報

では小雨が降り、寒い一日と言われているようですが、雨も降らずまあまあのお天気でした。午前十時より

八幡ロイヤルホテルにて参加者四十三名で第十七回ボランティア研修交流会が行われました。

「ふれあい佐賀」より富崎会長と佐賢協の鹿倉和代副会長が早朝佐賀を出発され参加してくださいました。

研修交流会は一部が講演会、二部が交流会と分かれ第一部は二階の「芙蓉の間」で小倉事業所の梶原の司会で始まりました。江頭会長の挨拶に続いて、西南女学院大学保健福祉学部福祉学科教授の杉原好則先生による「ボランティアについて」と題し①ボランティアとは ②障害者ボランティアについて ③これからの障害者ボランティア運動の

方向性と順に白板・ビデオ・テレビ等活用され長年の経験にもとづいたものでした。

(尚、講演の内容は次号に掲載の予定です)

多岐にわたった講演は十一時四十五分に役員の河添博志の閉会の挨拶で終了しました。

十二時より十三階のスカイバンケットルームへと場所を移し、第二部交流会が行われました

第17回 ボランティア研修交流会 「さわやか」

チームや「役者はだれだ?」チームに一つ入れられた、ワサビ入りパンを食べた人を当てる「ゲーム」・スクラッチくじなど、ご協力いただきました。

第二部は、八幡事業所の山田が開会の挨拶と共に司会をしました。まず、岡副会長の乾杯から始まりました。講師の杉原教授にも交流会にご参加いただき、ボランティアの方と一緒に頑張って

講演中の杉原教授



お世話になっっているボランティアの皆様楽しんでいただこうとの思いからゲーム攻めでゆつくりと食事ができなかったのでは...と、毎回ながら反省しています。最後に江頭会長より、研修交流会が十七回を迎えられたのは、ボランティアさんのご理解とご協力以外のなものでもない、との感謝の言葉で予定どおり午後二時に終了しました。(寄友)

研修交流会に参加して

小倉北区 平村 千鶴子

十二月八日ボランティア研修交流会に参加させていただきました。西南女学院大学の杉原先生の講演を拝聴致しました。ボランティアについての、先生が実践された体験談等織りまぜたお話は大変勉強になりました。盲導犬パピーウォーカーのお話の中でも少し涙ぐまれたように見受けられ、生き物にも深い愛情を持たれている先生が行政を引退されたのが残念に思いましたが、でも大学でこれからの社会を担う若人達に夢の実現に向かっているリーダーを一人でも多く、社会に送り出していただくようお祈りしています。

八幡西区 山下 精一郎

ロイヤルホテルの玄関で降り、懐かしい場所を見てまわった。製鉄所の旧本事務所であったこの場所。業務で何度か来たことがある。また組合が抗議行動を行った場所である。ボランティアについて、杉原教授の講演が始まる。実は杉原先生には、この夏シニアサマーカレッジで二ヶ月間お世話になりました。行政とボランティアの比較、障害者ボランティアについてでは、盲導犬パピーウォーカーの話の中で声を詰まらせる時もあった。自らも障害者の療育キャンプの指導、実行を続けられている心優しい人柄と感じました。交流会では事務局の方々のお世話で進行され、自己紹介、ゲーム等大変楽しく時が過ぎて行きました。月に66回も送迎されるボランティアさんがいてびっくりしました。また透析をされている方とは知らずにお酒をすすめて大変失礼しました。ボランティア活動を更に充実させたいと思います。

事務局よりお知らせ

今年もお世話になりました。来年もよろしくお願ひします。年末年始のお休みは次のとおりです。よいお年をお迎え下さい。

12月28日 ▼ 1月5日

また交流会では、コーディネーターの方々の温かい持て成し有難うございました。私も当ホテルでの交流会は三度目でしたがクジ運の悪い私が大当たりをいただきましたほんとうにびっくり致しました。今年には体調をくずして何時辞退しようかと思つたこともありましたが、大変なご褒美をいただき元気が出たようで、もう少し頑張ろうかなと思つています。これからもよろしくお願ひ致します。

研修交流会 エピソード集



初めて大学教授を招いてのボランティア研修。大学教授ともなれば、「ソーライゼーション」とか「バリアフリー」など、横文字の解説や、私たちの現実とかけ離れた外国の福祉の例などを講演されるものです。ところが杉原教授のお話は、実験に基いた貴重なお話で、参加者全員、「いい話が聞けた」と、喜んでいました。



交流会のゲームの中で様々な賞品が出ました。最後に、何も賞品を貰えなかった人が一人酒井さんでした。山田司会者が、「何も貰えなかった感想は？」と聞くと「まあこんなものでしよう。」と半ばあきらめの発言。そこで、酒井さんには何もなかったので特別賞として、ロイヤルホテルのペアードイナー券を進呈します」と言うと、場内から大きな拍手が起きました。そこでまた感想を尋ねると「負けるが勝ち」と。場内、再度大きな拍手。「残り物に福あり」と言わぬところが、感動を呼んだのか？



パンにワサビを入れて食べさせることなど、誰が考えたのか？とんでもないゲームを考えるものだ。それにしても、ゲームを考えた山田、梶原の両名がよりもよって25%の確率のワサビパンに当たり、苦い顔をしていました。当然といえば当然。ざまーみる！



交流会の「オリオン」の席は、来賓中心の席でした。ワサビ入りのパン食いで、何故か「オリオン」の席は通り越しました。「オリオン」の席の皆様は、「ここは、ゲストの席だから、遠慮して通り越したんだろ。さすが、さわやかレディはたいしたものだ」と話していました。ところがどっこい、最後に登場したのが「オリオン」のゲスト。それまでは、4人中1人だけにワサビが入っていたのに、「オリオン」の時は4人中3人にワサビが入っていました。講師の杉原教授曰く「これは、ひどい。確率が75%だもんナ。」と苦笑いしていました。それにしても、ゲストを陥れるとは、さわやかレディもやることはやるわい。ゲストが心の広い人ばかりでよかったですヨ。

江頭会長、ワサビパンを食べた後、さわやかレディースに「今度から、ゲームの中身は会長の許可制にする。勝手にしたらいかん！」と怒りまわっていました。よほどワサビがきいたのでしょうか？

